令和７年度　学校関係者評価結果

評価の基準
３：基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている
２：概ね基準を満たしている
１：基準を満たしておらず改善が必要

大項目	小項目	評価の基準	評価の基準となる資料、データ	評価	要約	学校関係者評価
項目１ 教育理念・目的・目標	1　教育課程の編成と授業科目	教育理念を踏まえ、看護専門学校としての目的および目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしている	・学則、細則、内規等 ・学生便覧等 ・卒業方針等が記載されている資料	2.4	概ね基準を満たしている。教育理念・目的・目標・卒業方針は示されているが、教員全体での共有や意思統一に課題が残る。現代の学生の状況やレディネスの現状に即した規定の見直しや改善が必要 1. 教育理念・目的・目標　卒業方針、規定関係は整備されているが、教員間での共有、意思統一に課題がある 2. 学生指導に関する規程に不足がある 3. 規定関係等の変更修正の周知方法の検討	教育目標やカリキュラムの段階性、学生のレディネスの見直しについて進めて行く必要がある。 規定や規則については卒業生像等を伝えていきながら対応してければ良いと考える。
項目２ 教育課程、教育の実施、学習成果	1　教育課程の編成と授業科目	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性、段階性に配慮した授業科目を配置している	・学則　・学生便覧 ・シラバス、履修ガイド、履修案内等 ・カリキュラムマップ	2.05	概ね基準を満たしている。３年課程が開設され３年が経過しカリキュラムが１周りしたところである。机上で設計したものと実際の運用では、修正や改善が必要な部分が出てきている。適切なカリキュラム評価を行い、学生のレディネスにも配慮したシラバスの修正、授業形態の検討、看護技術教育の積み上げなど方向性を考えていく必要がある。また、教員間の共通認識も最重要課題である。 1. 体系的なカリキュラム評価の必要性 2. カリキュラムにおける課題と改善への共通認識の必要性	教育課程は体系的に構成され、系統的、段階的に組み立てられている。積み上げ方や共通認識や学年間での連携が気になる。 曖昧な評価は学生のモチベーションを下げるので、厳格に評価してほしい。育てたい卒業生像を考え、ルーブリックのすり合わせ、共有化を整備していってほしい。 現代の学生にあった教育方法も必要であるが、基礎をもとに思考する力、アセスメント力を見据えた指導が必要である。
	2　教育の実施	1　授業科目内容に応じ、講義、演習、実習など適切な授業形態かつ適切な教材で教育が実施され，基準に基づき適切に成績評価が行われている	・シラバス ・学生便覧 ・学則、成績評価基準等 ・指定養成施設の場合は指定規則基準など		基準に沿った教育は実施されているが、カリキュラム評価の必要性がある。評価の一貫性・公平性に関しては、特にルーブリック評価の場合に教員間の共通認識が必要と思われる。評価に迷う場合はケースを丁寧に検討し、共通認識を作っていく。人間性等の育成に関しても課題である。 1. 授業形態が適切と評価している教員がいる一方、必要な能力をどう積み上げていくか課題としている教員がいる 2. 評価の公平性・一貫性に課題 3. 主体性の段階的な育成の検討	

大項目	小項目	評価の基準	評価の基準となる資料、データ	評価	要約	学校関係者評価
項目３ 学生の受け入れ 学生支援	１　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	１　入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定している ２　学生の受け入れは、入学定員に基づき適正に行っている	・学則 ・入試規程、入試実施要領 ・入学者選考基準、募集要項等	2.08	選考基準は整備されているが、定員割れや志願者減少により、基準が実質的に機能していない。その結果、基礎学力や適性に課題のある学生が増え、教育現場での対応が困難になっている。 1. 宮城県の状況を踏まえた“選ばれる学校づくり”が必要 2. 選考基準は整備されているが、運用に課題 3. 学生の基礎学力・レディネスの低下が深刻 4. 入試方法・内容の見直しが必要	専門学校の定員増や大学の新設などにより、入学生の確保には苦労されていると思う。医師会の強みは社会人学生がいてお互いに成長し合えることだと考えている。 ３年課程となり、学習の前に人間形成から始めなければならないと感じている。主体性が育つようにシラバスの活用や、主体性を育てるための段階的な教育を考えていく必要がある。
	２　自主的な学習の促進に対する支援	学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行う等学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っている	・シラバス ・学習状況の把握や補修授業の実施状況等が分かる資料 ・学習支援の体制や実施状況が分かる資料		概ね基準を満たしている。教員個々の努力によって支えられているものの、シラバス活用・自主学習支援・学力不足学生への対応・国家試験に向けた長期的支援体制といった点で体系的な仕組みが不足している 1. シラバス活用の改善 2. 自主的な学習支援体制の構築の必要性 3. 課題学習時間の活用の工夫 4. 国家試験に向けた長期的支援体制の必要性	
	３　多様な学生に対する支援	１　適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っている	・多様な学生に対する支援が分かる資料		現状、学校の合理的配慮や多様性への支援体制は整備途上であり、方針の不明確さ・教職員間の認識の不一致・基準の曖昧さが大きな課題となっている。 1. 支援体制が整備途上で不透明 2. 教職員間での共通理解不足 3. 多様性への対応が追いついていない 4. 支援の実施は部分的で体系化されていない 5. 教職員の学びの場・研修の必要性	
	４　学生生活に関する支援	１　カウンセラーの配置、相談室の配置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適正に運営している ２　留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っているか ３　学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適正に運用している ４　学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用している	・カウンセラー配置等による相談体制等が分かる資料 ・学生便覧、学生生活の手引き等に記載の相談体制を周知する資料 ・学校保健計画や健康管理体制等が明記された資料 ・キャリア支援等に関する資料		概ね基準を満たしている。カウンセリング利用者は増加している。さらに学生に周知し相談環境の整備に務める。留年者、退学希望者への対応は個別に対応しているが、情報の共有が必要である。キャリア支援については２年課程をベースに対応してきたが、今後評価し３年課程にあわせたものに修正していく必要がある。 1. カウンセラー体制は定着しているが、周知を強化していく 2. 学習困難者に対する支援の情報共有が不足している 3. ３年課程に合わせたキャリア支援体制の構築の必要性	

大項目	小項目	評価の基準	評価の基準となる資料、データ	評価	要約	学校関係者評価
項目４ 教育実施組織・教員	１　教員の配置、募集、採用	１　教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を確保するために基準等（教員の採用基準）を整備し、適正に運用している ２　教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時間数を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること	・教員の採用等に関する資料 ・教員名簿 ・教員の授業分担、時間割等の担当する授業時間数等が分かる資料 ・教員評価に関する資料	1.93	基準を満たしていないと評価する教職員が多くなっている。教員の要件、資格については適正に運用しているが、臨地実習、講義、演習、クラス運営と教員に求められる業務が多く多重業務となっている。教員の力量も考えながら平等性を担保することに苦慮している。特に今年度は３年生の臨地実習が開始となり、教員の負担増となった。教授力等教員の評価にも課題が大きい。 1. 教員の業務量過多 2. 教員評価の構築の課題 3. 教員の授業数の調整（特に週単位） 4. 規準を満たすとの評価もある	教員の要件、資格は適正に運用されている。業務のバランスについては、面接やDX化をすすめていくことも有効と考える。 教員の研修の受講等も進めていってほしい。
	２　教員の組織編制等	１ 学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程などで定めている ２　教員間で連携、協力体制を構築している			規準を満たしていないと評価している教職員が多くいる。教員の多重業務や業務分担の急な変更等により教員の負担感が増している。学年毎の連携はとれているが学年を超えた学校全体での連携に大きな課題がある。協力体制のための環境整備、組織の改革が必要である。 1. 教員の業務過多と不公平感 2. 連携・協力体制の不十分さ 3. 組織としての環境整備不足 4. 一部では「概ね満たしている」との認識もある	
	３　教員の組織向上	１ 学校の教育活動の改善、工夫を行うFD（Faculty Development）などの取組や、教員の研究活動、自己啓発への支援を行っている	・教員の採用等に関する資料 ・教員名簿 ・教員の授業分担、時間割等の担当する授業時間数等が分かる資料 ・教員評価に関する資料		概ね基準を満たしていると評価している。ただし、自己研鑽や研究活動は本人任せとなっている部分が大きい。面談等を通して提案したり、教職員に必要と思われる研修の提示等管理者の努力も必要である。また、学校による研修会の企画運営も必要である。 1. 自己研鑽が“個人任せ”になっている 2. 時間的・精神的余裕がなく、研鑽が進まない現状がある 3. 教育環境の改善は進んでいる部分もある 4. 個々の教員の課題意識はある	

大項目	小項目	評価の基準	評価の基準となる資料、データ	評価	要約	学校関係者評価
項目5 教育環境	1　教育環境の整備	教育上の必要性に対応できる施設・設備・機械器具類を備えている	・施設・設備等の概要 ・演習、実習、学生支援等の施設等が分かる資料 ・指定養成施設の場合は、必要施設等が整備されていることが分かる資料 ・図書室の整備や専門書等の整備が分かる資料	2.53	概ね基準を満たしているとの評価である。施設・設備は「概ね整っている」という評価が多い一方で、老朽化・ICT環境・演習設備・教室不足といった“部分的な弱点”がある。 1. 全体としては「概ね整っている」という評価が多い 2. 老朽化や臨床とのギャップが課題 3. ICT環境の改善ニーズが強い 4. 合同教室の整備、運用が課題 5. 継続的なアップデートが必要	概ね整備されている。古くなっているものについては更新をしていく必要がある。
	2　安全対策、防災組織	学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っている	・学校保健安全法等に基づく計画等の安全対策が分かる資料 ・防災計画や消防点検等及び改善状況等が分かる資料 ・防災訓練等が分かる資料		「概ね実施されている」が、災害時の連携・報告体制、防犯管理、訓練内容の質、設備更新の周知といった“実効性を高める部分”に課題が残っている。 1. 基本的な安全対策は実施されている 2. 訓練内容の改善が必要 3. 防犯面のリスクが残っている 4. 継続的なアップデートが必要	
	3　施設・設備等の点検、改善など	1　施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っている 2　施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施している				

大項目	小項目	評価の基準	評価の基準となる資料、データ	評価	要約	学校関係者評価
項目6 教育活動の基盤と改善・向上の取組	1　中期事業計画と財務基盤	当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立している	・中長期計画が分かる資料 ・財務計画、状況が分かる資料	2.40	概ね基準を満たしているとの評価である。 財務状況の透明性・安定性に対する不安が残っており、理解度にもばらつきがある。 1. 財務計画は存在し、共有もされている 2. 財務状況の“透明性”に課題 3. 財務の安定性に対する不安 4. 小さなコスト管理の必要性 5. 情報共有はされているが、理解度に差がある	時々ホームページをみているが、情報発信に力を入れていることがわかる。 インスタグラム等、時代にあわせた発信や活用も望まれる。学生の意見等を取り入れながら進めていっていけると良いと考える。
	2　学校運営	学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われている（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む）	・学校運営に関する規程、学校運営に関する会議体、規則等及び運営状況が分かる資料		概ね基準を満たしているとの評価である。組織体制や会議運営は整備されているが、会議の内容や開催頻度への課題がある。また、会議での決定内容等の情報共有にも課題が指摘されている。 1. 形式としての体制は内容情報発信等に課題がある 2. 内規・明文化の不足 3. 会議運営の課題 4. 組織体制の脆弱さ 5. 人材育成・業務分担の見直しが必要 6. 学生のレディネス低下への対応	
	3　学校評価の実施と改善活動	1　学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表している	・学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等の議事録及び意見等が反映されていることが分かる資料 ・関連企業団体、地域社会等の意見及び意見を踏まえた改善等が分かる資料 ・学校評価の結果や改善状況を公表していることが分かる資料 ・学校評価の改善状況が分かる資料		概ね基準を満たしていると評価している。形式としては実施されており、一定の取り組みもある。しかし、改善の具体化・継続性・見える化・外部意見の反映といった“評価を活かす部分”が弱く、PDCAが十分に機能していない。 1. 学校評価そのものは実施されており、一定の評価もある 2. しかし、評価結果に基づく“改善”が弱い 3. カリキュラム評価・外部意見の活用が不十分 4. 改善の“見える化”が不足している	
		2　学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っている				
	4　社会からの理解と情報の公表	当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表している	・教育活動、学校運営等の情報を公表していることが分かる資料 ・教育目的等の達成や活動状況について関連教育機関や産業界等に対する取組等が分かる資料		情報発信はホームページ・パンフレット・SNSなどで行われている。関連教育機関や産業界への情報公開の不足、発信における評価がないこと、学生の近況の発信の不足等課題が残る。 1. 情報発信は行われているが、外部公開としては不十分 2. 情報発信の“質”と“方向性”に課題 3. 客観的な評価基準がない 4. 情報発信の積極性に疑問 5. 一部では「概ね良い」という評価もある	